

# 千年の森便り No.245

2024.5.28

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 福島成樹

[sennennomori@hotmail.co.jp](mailto:sennennomori@hotmail.co.jp)

## 活動の記録

### 5月19日（日）天候 曇り

5月の活動は、恒例の公開行事である「初夏の清和県民の森と豊英島を楽しむハイキング」を開催しました。当日は曇り空でしたが、ハイキングにはちょうど良い気温でした。午前中は植物を観察しながら県民の森を2時間半のハイキング、昼食後は豊英島を散策しました。ご参加いただいたみなさんからは、いろいろなものが見られて良かったとのお話をいただきました。朝から島で危険木伐採の事前準備をしていただいた苅米さん、竹下さん、ありがとうございました。参加者は、秋元、伊藤、鶴沢、大原、苅米、坂本、清水、竹下、福島、村野の会員10名、一般参加15名、合わせて25名でした。



事前準備の苅米さん、竹下さんと合流して全員で記念写真

次回の定例活動日は6月16日（日）です。ニホンジカ生息状況調査と駐車場周辺の草刈り、危険木の伐採、刈り払い機の操作講習などを予定しています。ご参加をよろしくお願いします。（福島）

### ○林道ハイキングの案内

春の林道を彩るのは可憐な野草の花ですが、新緑の5月になると木の花が目立ちます。集合地点の清和県民の森駐車場では純白のエゴノキとガマズミの花が成田方面など遠方からのゲスト15名を迎えてくれました。

BGMは野鳥のコーラスで、歌い手は美声のキビタキ、メジロ、ウグイス、シジュウカラ、時には悪声のカケス、ヒヨドリも加わっていました。行程の途中では「焼酎一杯ぐいー」と聞こえるセンダイムシクイの鳴き声もありました。

この行事は毎年5月の第3日曜日に開催ですが、年により季節の進み具合が違っているので、何がみられるか歩いて見なければわかりません。案内人としては鮮やかな黄色のジャケツイバラが豪勢に咲き誇る姿を見てもらいたいのが本音でした。今年は期待通りに豪勢とは言えなかったまでも、どうにか花がみられたので一安心しました。

昨年は程よく熟したモミジイチゴが沢山あって皆で味見できたのに、今年は期待外れ、こんな事があるのが自然観察会の常です。

この原稿を書いている時点では窓の外に雨音が聞こえています。雨が一日ズシてくれて助かった、また汗ばむ夏日でもなかったのも良かったと思っています。ハイキングとは別行動で、事前に島内の危険木処理など安全確保の裏方に徹してくれた皆様、ありがとうございました。（坂本）



鳥の声を聴きながらハイキング



エゴノキの下で



森のシャンデリア（エゴノキ）



ウヅミザクラの実を観察

## ○豊英島の散策

午後は会の活動地である豊英島を散策しました。駐車場から、通常は鍵がかかっているゲートを抜け吊り橋を渡ります。吊り橋の高さは水面から10m以上あり、高所恐怖症の方にはかなりスリルがあります。橋を渡って歩道を進み千年広場へ。そこで簡単に会の活動を紹介し、ハチヤヘビなどに対する注意事項をお話して散策をスタート。コースは、千年広場から南へ向かいホテイ岬を回って、ヒメコマツの植栽試験地、ナラ枯れの枯死木を伐採しているコナラ林を抜けて広場に戻るルートでご案内しました。

ナラ枯れにより枯死したコナラや枯死木を伐採している状況、明るくなった林内にシカが食べない植物が増えてこれまでとは違った森に移り変わっている状況、ニホンシカによる食害と植生保護柵による生物多様性保全の取り組み、最近になって島に侵入してきたイノシシの影響などについて説明し、実際の状況をご覧いただきました。観察できた植物としては、実をつけて大きく育っているヒガンマムシグサ、シカが食べないために増えているアセビやシロダモ、ホテイチク林とタケノコ、ほかに一昨年まで営巣していたトビの巣などを見ていただきました。今回は、残念ながら？ヤマビルに出会うことはありませんでした。(福島)



吊り橋を渡って島へ



会の活動について説明



川回しにより島ができた話



物置の設計について説明

## ○5月の植物の様子

集合場所となっている清和県民の森管理事務所下の駐車場には毎回話題となるアワブキ、ガマズミ、エゴノキがあります。ヤマツツジもいつものように花を咲かせていました。今回も期待を裏切らない感じがし、幸先の良さを感じさせました。参加者からの質問でリュウキュウマメガキ？が案内板のところにあることを知りました。案内板に触れるまで枝が垂れ下がっていました。新緑のこの時期ならではの楽しみがありこの行事に参加できる幸せを実感しています。

楽しい植物も多く一部を記載します。枝いっぱい花を付けたエゴノキの花は頭のあたりまで下がってきて、より印象的でした。フサザクラの緑色の種、白い花のマルバウツギ、二色のニシキウツギ、朱色のヤマツツジ、ジャケツイバラは黄色の花と鞘、コケリンドウ、ノアザミ、ニワゼキショウ、コメツブツメクサ、ユウゲショウ、アズマイバラ、テイカカズラ、ヤブヘビイチゴ、ツクバネ、ツクバネウツギ、ドクウツギ、花の終わったツクシショウジョウバカマ、見分けの難しいヤマハゼ、ヤマウルシ等散策路は色とりどりで野鳥の鳴き声、カエルの鳴き声と山ならではの空気がありました。普段見慣れている花でも新鮮な気持ちで見られました。

記念写真を撮った橋からは周囲の山が一望でき、開けた谷の空間にスダジイの新緑(黄色)がより一層輝いていました。ここで橋から数十メートル下の谷底の水面付近のシダに覆われた岸边にあるシランを坂本さんが野生で見られるのは珍しいことだと解説していました。肉眼ではわからず、私は写真に撮りモニター画面で確認しました。散策路の終盤にこのコースのハイライトともいえるべきものがあります。モウセンゴケです。モウセンゴケのある崖は絞り水が滴っていていつも湿っているようです。虫をとらえたモウセンゴケがありました。なかなかお目にかかれないことです。

豊英島のコナラ伐採地(植生保護柵内)には、ヤマツツジの花が初めて咲いていました。花芽をつけたキヨスミギボウシもあり、ここ数年咲いているようです。花期が楽しみです。前回蕾を付けていたハンショウヅルは見逃してしまいました。じっくり観察すれば見つかったかもしれません。ホテイ岬には、あまり目にしない珍しいホテイチクがあります。数は少ないですが新しいたけのこが伸びていました。たまたま、動物の食害から逃れたのかもしれません。(秋元)



アワブキ



ガマズミ



エゴノキ



ヤマツツジ



リュウキュウマメガキ?



マルバウツギ



ジャケツイバラ



コケリンドウ



ノアザミ



ニワゼキショウとコメツツメクサ



ユウゲショウ



アズマイバラ



テイカカズラ



ツクバネ



コゴメウツギ



ドクウツギ



ツクシショウジョウバカマ



野生のシラン



虫を捕えたモウセンゴケ



ホテイチク

## ○島内散策路の整備

午後から島内で散策をするということで、先月の活動時に発見した 散策 路際の枯損木 3 本を取り急ぎ処理しました。

午前中に処理を終えたいという時間的な制約、植生を傷めたくないという伐倒方向の制約、当会屈指の武闘派 1 名がまさかのドタキャンという人員的な制約がある中、ロープウインチを活用して無事、伐倒することができました。苅米さんの手際が良かったこともあり、当初予定していた以外にもまだまだできそうな気もしましたが、予定外の作業は事故のリスクが高いので無理をせず、今後の楽しみとして残しました。

安全作業の観点からも、事前に計画を立て、それに沿って無理なく進めていくのが肝要です。ご安全に！（竹下）



伐採した散策路沿いの枯損木

## ○新たな発見がいっぱい（上原康男）

講師で案内をして下さった坂本さんの話に耳を傾けると、普段何気無しに見ていた樹木や草花にも大きな特徴と違いがあることに気付かされました。咲き誇るエゴノキは森のシャンデリアの別名を持つこと、その実には毒性があり、子供の頃は魚捕りに使って遊んだこと等、楽しい話と新たな発見がいっぱい。豊英島では保護区域内に入り、生き物と自然を共生させた大きなビオトープを見せていただきました。人の望む共生とその意をくむ事の無い生きものがどんな方法で共生して行くのか、終わりの無い戦いと皆様の努力を見た気がしました。自然を愛してその存続に労を惜しまない皆様の姿勢に敬意を持つハイキングでした。



咲き誇るエゴノキは森のシャンデリア（上原さん撮影）

## ○千葉の自然に興味津々（保延範子）

初めて参加して、千葉県にこういうところがある事さえ知らず…興味津々でした！

まず、島が有るなんて…半信半疑…大自然の中で県内に居る事を、忘れる程でした！沢山の自然に出会えた事、詳しく説明して頂き、感謝でいっぱいです。ありがとうございました！

モウセンゴケ、コケリンドウ、オオバウマノスズクサ、エゴノキ、印象深いです。エゴノキの話をする、家の庭木にも植えられていた事を、再認識しました。環境すべてが整うとシャンデリアになるんですね～想像も膨らませるひと時でした。詳しくわかりやすい解説に、一層自然に目を向ける自分でした。

充実した計画、配慮に感謝するばかりです。これからの皆様のご活躍を一層応援致します！

## ○初夏の清和県民の森と豊英島を楽しむハイキングに参加して（伊藤清子）

今回、山ともさんの紹介で初めて参加させていただきました。普段の山歩きとは異なり専門家の説明を聞きながらの山歩きは大変素晴らしい体験でした。小さな野生の紫蘭を見てその可憐さに気づいたり、コケリンドウの余りの小ささに驚いたり、楽しい時間があっという間に過ぎました。また豊英島では鳶の巣を上から間近に見ることが出来たのもとても貴重な体験でした。さらに現在行われている植物保護の手法や、千葉県の貴重植物ヒメコマツの植栽試験、過去に行われていた川回しの説明には驚くばかりでした。会員の皆様のお陰で房総丘陵の自然が守られていると実感致しました。機会があればまた参加させていただきたいと思います。

## ○いくつか詠んだ俳句をご紹介します（友塚新樹）

清和県民の森のハイキングでは、ガマズミとフサザクラが目立ったという印象ですが、同じコースを歩いた2017年のときと同様、たくさんの植物を観察できました。いくつか詠んだ俳句をご紹介します。

【えごの花 曇りを照らす シャンデリア】

天気は曇り。歩きやすかったのですが、（朝早く起きて少し眠たかったこともあって）私のテンションも高いとは言えませんでした。しかし、歩き出してすぐにエゴノキの花たちが出迎えてくれました。

【制圧す ジャケツイバラの 鉄条網】

ジャケツイバラが、棘のついた茎を四方八方に伸ばして他の植物に絡まっていました。厳密に言えば、ジャケツイバラの棘はフック状なので鉄条網にはなりません…

### 【滴りて モウセンゴケの 目覚む朝】

前は乾燥して元気がなかった覚えがあるのですが、みずみずしく綺麗でした。サワガニの住処が群落の斜面にあって、姿を見せてくれましたが、モウセンゴケの掃除係をしているのでしょうか？

午後は、豊英島に上陸しましたが、クロモジが増えていたのと、台風被害とナラ枯れ被害を経てコナラのほとんどにキノコが生えていることが個人的には目につきました。伐木のお手伝いできればいいなと思っています。



左からエゴノキ、ジャケツイバラ、モウセンゴケ (友塚さん撮影)

### ○センサーカメラの動物たち

CAM1 についてはカメラ不調のためか記録がありませんでした。記録が多かったのは CAM2 で、撮影された動物はキョンの頻度が高く、設置期間の 29 日間のうち 5 日で記録がありました。キョンのほかにはアライグマ、イノシシ、ハクビシン、カケスが記録されていました。CAM3 はキョンが 3 日、カケスが 1 日記録されていました。一方、ニホンジカについては記録がありませんでした。同時に記録された最大頭数は、キョンが 2 頭のほかは 1 頭でした。(福島)

- 設置期間：4月21日～5月19日(29日間)
- 設置場所：CAM1(つり橋着岸点付近)、CAM2(ホテイ岬への分岐点付近)、CAM3(ホテイ岬先端付近)
- 日数は記録された日数で、同じ日に複数回記録されても1日としています。

CAM1 記録なし(カメラ不調?)

CAM2 キョン 10日、アライグマ 5日、イノシシ 1日、ハクビシン 1日、カケス 1日

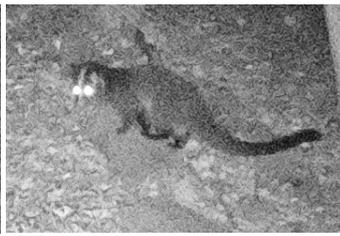
CAM3 キョン 3日、カケス 2日



キョン



アライグマ



ハクビシン



カケス

### お知らせ

○次回の定例活動は 6月16日(日)です。

ニホンジカ生息状況調査、水辺の環境整備、駐車場・電柵付近の草刈り、刈り払い機操作体験、危険木伐採を予定しています。鎌、刈り払い機などの準備をお願いします。梅雨時期ですので熱中症対策と、島に入る際は、ヤマビル、ダニ対策、安全のためヘルメットの着用をお願いします。